

移動式クレーンを起因物とする激突されの死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	13 ～ 14	貨物船からオレンジバケットを装着したクローラクレーンで鉄クズの荷揚げ作業中、突然ペンダントロープが切断してクレーンのブームが落下し、船上でクレーン運転手に合図をしていた者が落下したジブに直撃を受けた。	50202	50～ 99
1999	2	13 ～ 14	材料置場で移動式クレーン付きトラックを使用して単管パイプを移動するときに、クレーンの作業半径を大きくとってしまい、またアウトリガーの張り出し巾が狭かったために、クレーンが横転し集積材とトラックのキャビン部の間に胸腹部をはさまれた。	30201	30～ 49
1999	6	22 ～ 23	クローラクレーンでトラックの荷台の排水デリバリーホースをつり上げ左旋回したときに、水タンク上の合図者の指示でジブを伸ばしたところ、クローラクレーンが倒れ、合図者が水タンクと倒れてきたジブにはさまれた。	30105	30～ 49
1999	7	9 ～ 10	小型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で発電機(1.6t)を吊り上げたところ、過荷重の状態になってクレーン車が転倒し、車体左側(助手席側)とガードレールとの間に挟まれた。	30106	50～ 99
1999	8	9 ～ 10	基礎地中梁配筋作業に使用する鉄筋をラフテレーンクレーン(吊り上げ荷重45t)で吊り込み作業中、クレーンが転倒し、材料の玉はずし作業者に、クレーンのジブが激突した。	30201	1～9
1999	8	14 ～ 15	畑を整地するため、2.9t移動式クレーンで機体重量約3tのドラッグショベルを吊り上げ、道路わき約2m下の畑まで降ろしていたところ、移動式クレーンが道路端に設置されたガードレール側に傾いたためクレーン車体とガードレールとの間に胸を挟まれた。	30199	10～ 29
1999	9	7	資材置場において、搭載形小型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で鉄骨カッター(鉄鋼製・重量約2t)を吊り上げたところ、同クレーンが横転し、そ	30199	10～ 29

		8	の下敷きになった。		
1999	11	16 ～ 17	車両積載型トラッククレーンで鉄板を荷台から地面におろす作業を行っていたところ、クレーンが横転したため倒れてきたクレーンと掘削面に設けた土止板との間に胸部を挟まれた。	30202	1～9
2000	3	0 ～ 1	海上ボーリング調査用台船の支柱組立のため、2. 9t移動式クレーンで重量約300kg、長さ約5mの支柱を吊上げ左旋回中、台船端の支柱取付け金具に接触したため衝撃で荷が振れて玉掛けワイヤーがずれ、いわゆる一本吊状態となって片側が落下し、近くにいた者が荷の下敷きとなった。	30199	1～9
2000	5	16 ～ 17	資材置場において、仮置きしていたコンクリート柱を建柱車の荷台に載せて移動し、建柱車のクレーンで柱2本を降ろしたときに建柱車が転倒し、クレーンのブームと地面にあったコンクリート柱との間に挟まれた。	30301	1～9
2000	8	9 ～ 10	25tラフタークレーンで地盤改良のためのウェルポイント用パイプの引き抜き作業で、クレーンを移動して引き続き作業を行うために鉄板(1. 6t)を吊りあげて旋回中にクレーンが転倒し、鉄板の敷設先付近で待機中の者が転倒してきた伸縮ジブに挟まれた。	30201	30～ 49
2000	11	0 ～ 1	工事現場から型枠材を積載型トラッククレーン(2. 95t)で資材置場へ運び、降ろす作業中にクレーンが転倒しその下敷きになった。	30108	10～ 29
2000	6	14 ～ 15	ヒューム管の補修工事において、工事が終了したので、2. 93tの移動式クレーンで重さ800Kgの発電機をトラックに積むため吊り上げたときにクレーンが傾いて発電機が地上に落下し、その下敷きとなった。	30107	1～9
2000	10	11 ～ 12	自動車道の橋脚工事において、吊り上げ荷重55tクローラークレーンで橋脚の吊り足場の高さを調整していたときにクレーンのジブが折れ、橋脚頂上部で作業していた者がジブの下敷きになった。	30105	1～9
2000	8	10 ～ 11	移動式クレーンで塩化ビニール管(長さ5. 5m、重さ15kgのものを約130本)をトラックの荷台から降ろしていたところ、吊り上げていた荷とともに移動式クレーンが倒れ、降ろし終わっていた荷と移動式クレーンとの間にはさま	40301	10～ 29

			れた。		
2000	5	9 ～ 10	吊り上げ荷重2.63tの移動式クレーンで、荷台の瓦(300枚900kg)を降ろす作業中に、クレーンがバランスを失って倒れその下敷きになった。	10905	1～9
2000	2	15 ～ 16	廃車するワゴン車(重量約1t)を積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.93トン)で運び込み、廃材置場に降ろすため吊り上げて回転させたときにクレーンが転倒し、廃材との間に挟まれた。	30199	1～9
2001	1	9 ～ 10	墓石据え付け作業において、道路から2.65m下の霊園内に墓石運搬用のカートクレーン(重量1.1t)を降ろすため、積載型トラッククレーン(吊上げ荷重2.5t)で吊上げたときに、作業半径3.36mの地点で同トラッククレーンが転倒し、トラッククレーンとガードレールとの間に体を挟まれた。	10909	1～9
2001	1	11 ～ 12	工場構内の、排水管(径70cm)を取替えるため排水管を移動式クレーンで吊りながら溶断していたところ、排水管のL部が支持していた架台にひっかかったので直そうとしていたときに、突然、架台から外れたためその反動で排水管(2.7t)が揺られクレーンの合図者が排水管と既設の排水管との間に挟まれた。	30302	1～9
2001	2	8 ～ 9	浚渫船を移動するため係留に使用していた約27tのコンクリートアンカーを120t浮きクレーンを用いて海中から引き揚げ、船上のクラムバケットの横に降ろす作業中、クラムバケットとコンクリートアンカーとの間に立ち入って頭部を挟まれた。	30111	100 ～ 299
2001	3	13 ～ 14	小型移動式クレーンを使用して培養土をトラックに積み込んでいたが、過荷重のためクレーンが横転し、クレーンに平行して止めてあったトラックとの間に挟まれた。	80209	1～9
2001	1	11 ～ 12	墓地内の木を伐採するため、木の枝を移動式クレーンで吊り枝の根元を別の枝からチェーンソーで切断していたときに、切断していた枝が跳ねて体に当たり、約8m下のコンクリート上に転落した。	60201	1～9
		9	移動式クレーンを使用して墓石の移動作業中にクレーンが転倒し、その下敷		

2001	5	～ 10	きになった。	10909	1～9
2001	6	11 ～ 12	橋桁下部に設置していた吊り足場の解体作業において、吊り上げ荷重2.9tのトラック積載型クレーンに同僚が橋桁下部で解体材を玉掛けし、これを巻上げているときにクレーンが転倒し、クレーンと橋の高欄との間にはさまれた。	30105	10～ 29
2001	6	9 ～ 10	木造2階建住宅の新築工事において、歩道に仮置された外壁パネル(10枚、質量1280kg)をトラッククレーン(吊上げ荷重4.9t)で吊上げ1階の仮床中央に降ろそうとしてジブをいっぱい伸ばし倒していったとき、車体の左側部が浮き上がってジブの先端が下がり、吊っていたパネルが1階仮床上で待機していた者に激突した。	30202	100 ～ 299
2001	7	11 ～ 12	個人宅新築工事において、2階通柱に取り付けたブラケットに掛け渡した足場板上(高さ5.8m)で移動式クレーンで吊り上げた管柱・軒桁を胴差しに取り付けたのち、吊荷の一方の玉掛用具をフックから外したときに、移動式クレーンのワイヤーロープが巻き上げられたため、もう一方の外されていない玉掛用具に吊られた荷が振れて当り2階床面開口部より墜落した。	30202	1～9
2001	8	10 ～ 11	跨線橋改良工事において、橋台基礎杭のコンクリート打設のため移動式クレーン(吊上げ荷重60t)で引き抜いたケーシング(質量約4t)を直立の状態一旦地上に降ろし、その後移動式クレーンで横に倒そうとしたときにケーシングの接地部が滑り、近くにいた者がケーシングと杭打機との間に挟まれた。	30105	1～9
2001	8	11 ～ 12	岸壁に係留された台船上の杭打ち機の作業台でケーシングの建込作業をしていたところ、ケーシングを吊っていた浮クレーンのワイヤーが緩んでクレーンの合図者の頭部に浮クレーンのフックが激突した。	30111	10～ 29
2001	9	5 ～ 6	杭打ち工事において、地質がボーリング調査結果と異なるのでボーリングマシンのビット交換を行うため、ボーリングマシンから取り外したビット(約800kg)を小型クローラクレーン(吊上げ荷重2.52t)で吊上げ、旋回したときにクレーンが転倒し、玉掛け者がブームとビットとの間にはさまれた。	30201	10～ 29
			上水道管布設工事において、掘削溝(深さ2.5m、幅2.2m)の中で溝内に仮		

2001	10	10 ～ 11	置した管(長さ6m、直径0.8m)を移動式クレーン(吊り上げ荷重25t)でつり上げて布設箇所に移動しているときに、土止め支保工の切梁と管との間に頭部を挟まれた。	30110	1～9
2001	11	9 ～ 10	墓石の据付けのため移動式クレーン(吊り上げ荷重2.5t、非乗車式)を操作して墓地入口の斜面(斜度18度)を登り切ったときに、急に移動式クレーンがバックしてきて斜面下まで約1.9m転落し、その下敷きになった。	10909	1～9
2001	12	14 ～ 15	試験杭の打ち込み作業において、上杭(φ800mm・長さ11m・重さ9.74t)を主巻きにより吊り込み、オーガーへ取り付けるため玉掛け作業を行っているときに、クローラクレーンが傾いて吊り上げていた杭材が激突した。	30109	10～ 29
2001	8	14 ～ 15	重さ約0.4tの鋳鉄管をバックホー(2.9t)で吊り深さ2.64mの掘削坑に布設するとき、土留のサポートを避けるため繰り返し坑内で鋳鉄管を移動をさせていて、4回目くらいに鋳鉄管を吊上げたところ荷が動いて管と土留壁との間に挟まれた。	30110	10～ 29
2001	12	9 ～ 10	防火水槽設置工事において、道路上に移動式クレーン(45t吊)を設置し防火水槽の部材(約9t)を高さ約7mまで吊り上げ左方向に旋回したところ、右側後部のアウトリガー設置箇所の路肩が崩壊したため移動式クレーンが転倒し、ジブの下敷きになった。	30199	100 ～ 299
2002	1	11 ～ 12	鉄板(長さ6m、巾1.5m、厚さ2cm、重量1.6t)を車両積載型トラッククレーン(2.9t吊、リモコン操作)の荷台に載せるときに鉄板を斜めに吊ったため、鉄板が滑りトラックの荷台と鉄板との間に挟まれた。	40301	1～9
2002	1	15 ～ 16	公園整備工事において、クレーン機能(最大吊上荷重1.7t)付ドラグショベルにより自然石階段の施工作业中、石(71×61×50cm)が旋回したときに玉掛け者に激突した。	30199	30～ 49
2002	3	11 ～ 12	スクリーン設置工事において、排水の異物分別用アルミ製枠(スクリーン、約1.1t)の設置のため、クレーンで吊り上げて既設の溝に嵌る作業中、上手く嵌らないので玉掛けフックを付け替えたときにスクリーンが溝から滑り激突された。	30199	1～9

2002	3	0 ～ 1	伐出現場で伐倒木を移動式クレーン（つり上げ荷重2.93 t）で林道に引き上げる作業中、引いていた伐倒木7本（長さ約3mから4m）が横に振れ、付近にいた作業員が伐倒木と岩との間に挟まれた。	60201	1～9
2002	2	0 ～ 1	橋梁補修工事において、橋梁基礎補強のための「場所打ち杭」の作業でクローラークレーンでケーシング鋼管（長さ3m、直径1.5m）を吊り上げ連結していたところ、連結部分がはずれて手前に振られた形となり、ケーシングと既設の杭（地上部に出ていた杭継ぎ足し用鉄筋部分）との間に頭部を挟まれた。	30105	1～9
2002	5	10 ～ 11	作業道に使用する杉丸太材を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）で運んできて道路端に仮置きし、ジブの長さ5.46m、傾斜角50度、アウトリガー最小張出しの状態状態で12本の丸太材を吊り上げて左旋回させ、既に置いていた丸太材の上に置こうとしたときにクレーンが右側に横転し、逃げ遅れて頭部をクレーンと丸太材との間に挟まれた。	60209	1～9
2002	5	9 ～ 10	宅地造成工事において、クレーン機能付き車両系建設機械でコンクリート製の排水溝の蓋9枚を不整地運搬車の荷台に積み込む作業中、荷台上で荷の誘導等をしていた者が不整地運搬車のダンプボデーと荷との間に挟まれた。	30109	1～9
2002	6	15 ～ 16	砕石プラントのスクリーン（石の大きさを選別する機械）架台の解体作業で、高さ約5mの箇所に設けられている架台（長さ約9.5m）の落下を防止するため移動式クレーンで吊った状態で溶断をしていたところ、接合部を焼き切ったときに吊っていた架台が回転し腹部に当たった。	11209	1～9
2002	6	14 ～ 15	資材置場から搬入したコンパネ（一束約800kg）をつり上げ荷重2.52tのトラッククレーンで吊り下ろす作業中に、吊り荷が激突した。	170209	1～9
2002	8	14 ～ 15	杭打機設置のため、敷き鉄板をジブの伸縮しないクローラークレーンで吊り上げて所定位置に移動させる作業中、8枚のうち7枚目（1.5m×6m×20mm、質量約1.2t）を吊り上げ旋回していたときに突然巻き上げブレーキが効かなくなると鉄板が自然下降し、玉掛けを終わって待避しようとしていた者に激突した。	30105	1～9

2002	9	7 ～ 8	米海軍基地内で道路を横断していたときに、基地従業員運転の移動式クレーン（米軍所有、51 t ホイールクレーン）に激突された。	170209	1000 ～ 9999
2002	10	14 ～ 15	根株付の材1本（質量約1 t）を県道脇の山林に降ろすため、積載型トラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げ作業中、トラッククレーンが山林側に転倒したためクレーンとガードレールとの間に挟まれた。	30199	1～9
2002	12	13 ～ 14	トラック積載型クレーン（2.63 t）で建設機械（質量1.3 t）を駐車場に降ろす作業中、クレーン車が転倒したためクレーンの操作者がクレーン車と脇にあった乗用車との間に挟まれた。	170209	30～ 49
2002	12	16 ～ 17	刑務所の増築工事において、外壁の上で逃走防止用センサーの取付作業を行っていたところ、モッコを吊って旋回していたホイールクレーン（吊上げ荷重26 t）がバランスを崩して転倒してきて、モッコとブームとの間に挟まれた。	30301	10～ 29
2003	2	15 ～ 16	移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使用して、工事現場に運搬してきた電柱4本（2.4t／本）を荷台から降ろす作業で、3本目をつり上げたときに移動式クレーンが転倒したため、近くでスノーポールの設置作業をしていた者の後頭部に、荷台に積載されていた4本目の電柱が激突した。	30106	1～9
2003	2	9 ～ 10	消波ブロックの海中への設置作業で、2日前に設置した消波ブロックの1段目の位置にズレがあったので、起重機船のクレーンで2段目のブロックをいったん海中に仮置きして1段目のブロックを修正し、その後、2段目のブロックが再設置のためつり上げられたときブロックが突然揺れ、1段目のブロック上にいた者がこのブロックと設置済みのブロックとの間にはさまれた。	30111	10～ 29
2003	3	8 ～ 9	河川改修工事で、道路上から工事用の金網のロール2本（計425kg）を積載形トラッククレーン（最大積載量2.75t、つり上げ荷重2.93t）で荷降ろし作業を行っていたときに、車体が横転しクレーンの運転士が車体の下敷きになった。	30107	10～ 29
		17	資材置場の駐車場において、トラックを方向転換させようとしたが雪のため		

2003	3	～ 18	スリップしたので、安全ネットを巻いて様子を見ていたところトラックが後退し始めたので止めようとしてトラックの後方に回り、トラック後部と資材置場の事務所壁面にあったスチールの棚にはさまれた。	30302	1～9
2003	5	～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	30201	1～9
2003	5	～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	30201	1～9
2003	7	～ 2	移動式クレーンのアウトリガーの敷板をつり上げるため、フックを降下させていたときに移動式クレーンが転倒し、敷板の近くにいた作業員の頭にブームが直撃した。	11301	1000 ～ 9999
2003	7	～ 17	リフティングマグネットをアタッチメントとして装着したドラグ・ショベルで、大型トラック荷台の金属スクラップを取ろうとしたときに、荷台内にいた作業員がマグネットに激突された。	11209	1～9
2003	9	～ 12	テトラポットを作製のためのコンクリート打設作業で、コンクリート打設に使用したバケットを移動式クレーンでつり上げながら内部に付着したコンクリートをハンマーで打撃しながら除去していたときに、バケットを支えていた移動式クレーンのワイヤロープが緩んだためバケットが転倒して下敷きになった。	30111	30～ 49
2003	11	～ 18	移動式クレーンの荷台からフォークリフトを降ろすため、クレーンでフォークリフトをつり上げて旋回し地上に下げ始めたときに、車が横転したため車の運転席ドアと隣接して置いてあった別のフォークリフトの間にはさまれた。	80209	1～9
2003	12	～ 12	軌道新設工事において、25tラフタークレーンで枕木を軌道上の台車に載せる作業中に、つり上げた荷が作業個所に隣接する信号リレー室に接触しそうになったので、誘導員がクレーンオペレーターにブームの起伏を指示したところ、つり荷が揺れてスリングベルトから抜け落ちて枕木の一方が誘導員に	30104	1～9

			激突した。		
2003	12	11 ～ 12	浄水場築造工事において、取付道路工事に使用する仮設資材（養生用鋼製金網）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）の荷台から荷卸しするため、浄水場内の坂道に積載形トラッククレーンを止めてアウトリガーを設置しているときに、クレーンが坂道下り方向に動き出しクレーンの後方で交通整理をしていた者に激突した。	170201	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	防波堤建設工事現場において消波ブロックをクレーン船で海中に設置作業中、設置済みの消波ブロック側面と次に設置予定のためクレーンにつられて海中で一時停止させた状態（着床していない）の消波ブロック側面との間に挟まれた。	30111	10～ 29
2004	4	14 ～ 15	移動式クレーンで、船を台座から海に移動させるための滑車をつり上げようと、ジブを約17m伸ばしたところ、移動式クレーンが転倒し、フックが被災者に激突した。	11501	10～ 29
2004	3	15 ～ 16	沼の浄化排水路工事において、クレーン機能付油圧ショベルのバケットとクレーン付きトラックのクレーン支柱との間に挟まれた。	30107	1～9
2004	12	8 ～ 9	ビル新築工事現場において鉄骨柱搬入作業中、つり荷の鉄骨柱（約14t）をつり上げ荷重50tクローラクレーンを用いてトレーラーからつり上げ、地上3m程の位置で左旋回させ所定の位置まで移動させていたところ、つり荷がクローラクレーンから約18mの場所で別の作業を行っていた被災者に激突した。	30201	10～ 29
2004	2	13 ～ 14	会社倉庫前で車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）を用いて、井戸掘削用の鉄製刃先付金棒（質量2.52t）を地上に下ろす作業中、当該クレーンが転倒し、荷台上にいた被災者が荷とともに地上に投げ出され、つり荷と激突した。	30199	10～ 29
2004	6	8 ～	墓地において、墓石の撤去作業を行うため、小型移動式クレーンを作業場所へ移動させていたところ、段差があったため、道板（アルミ合金製）を敷	10909	1～9

		9	き、その上を走行中、当該小型移動式クレーンが転倒し、操作していた被災者が下敷きになった。		
2004	12	8 9	車両積載形トラッククレーンの荷台から鉄筋の束を下ろすため移動式クレーン運転者が荷台から無線操作をし鉄筋をつり上げブームを旋回させたところ、定格荷重を超えていたため車両積載形トラッククレーンが転倒し、玉外しを行うため現場内にいた被災者にブームの先端が激突、倒れたブームの下敷きになった。	30201	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	つり上げ荷重2.93tの移動式クレーンを用いてアウトリガー最小張り出しにて、修理依頼された重量約1.6tのトラクター・ショベルをつり上げてトラックに積載しようとしたところ過負荷となり、移動式クレーンが転倒し、移動式クレーンの運転を行っていた被災者が下敷きとなり死亡した。	11702	10～ 29
2004	2	9 ～ 10	道路上から高さにして約4.6m下の擁壁の裏込めした場所に、つり上げ荷重約3tの車両積載形トラッククレーンで荷台からヘッドガードを取り外したドラグ・ショベルを下ろそうとしたところ、クレーンが斜面側に横転し、逃げ遅れた被災者がクレーンの下敷きになった。	30108	1～9
2004	3	15 ～ 16	セルラーブロック製作工事においてつり上げ荷重40 t の移動式クレーンを用いて鋼製型枠をつり上げていたところ、当該クレーンが横転し、同鋼製型枠が完成したケーソン上（高さ4m）で作業をしていた被災者に激突した。	30107	10～ 29
2004	5	15 ～ 16	雨水幹線築造付帯工事現場において、移動式クレーンによりスリングベルト2本つりで玉掛けした金属製扉を雨水管ピット部（深さ約2m）よりつり出す作業をしていた被災者が当該つり荷とピット壁面の間に挟まれた。	11209	1～9
2004	5	10 ～ 11	電柱建替工事現場において、移動式クレーン（2.9 t）を使用して、既設の電柱の支柱（重量900kg、長さ12m）を撤去する作業中、当該移動式クレーンにて支柱をつり上げて移動させていたところ、当該移動式クレーンが転倒したことにより、補助作業に従事していた被災者が転倒した移動式クレーンのジブと支柱との間に挟まれた。	30301	10～ 29
2005	1	0 ～	現場で使用する鉄筋を自社工場で加工し、小型移動式クレーンにより、大型	11209	10～

		1	トラックに積み込む際、小型移動式クレーンが傾き、被災者に激突した。		29
2005	11	16 ～ 17	護岸工事に用いる地固めブロックの玉掛け作業中に、クレーンオペレーターが後方を確認しようとして後ろを振り向いたところ、誤って走行ペダルを踏んでしまったため、クレーンが後退し、ブロックが倒れて玉掛け作業中の被災者が挟まれた。	30107	30～ 49
2005	6	0 ～ 1	墓石を移動するのに使用する移動式クレーンで、コンクリート階段脇のロープを自走して上っていったところ、途中で移動式クレーンが後退し、機体後部で操作していた被災者が下敷きとなった。	10909	1～9
2005	11	10 ～ 11	ごみ処理再生工場の新築工事現場において、移動式クレーンでつられてきた建築資材を屋根の上を下ろす作業を行っていたところ、同クレーンのアウトリガーの敷板が割れ滑ったことから、つり荷とつり具が急に屋根に着地してバウンドし、当該つり具が屋根の上にいる被災者に当たり、屋根の上から地上に墜落した。	30209	1～9
2005	1	13 ～ 14	活性炭の実験装置（重さ1.6トン）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）により運搬するため、活性炭の実験装置をつり上げ、当該クレーン車両の荷台に積み込むために右旋回させたところ、当該クレーン車両が右側に横転し、その下敷きとなった。	40301	100 ～ 299
2005	6	9 ～ 10	移動式クレーンを使用して鋼板（1枚の重さ600kg）8枚をつり上げて旋回したところ、被災者らが支えるまくら木に鋼板の側面が当たり、まくら木の一部が被災者に激突した。	50202	10～ 29
2005	7	10 ～ 11	貨物自動車を傾斜のある場所に停車させ、ギヤを中立にし、サイドブレーキを掛けないまま運転席を離れたため車両が傾斜を下りだし、これに気付いた被災者が車両前方にまわり込み止めようとしたが止めきれず、他の貨物自動車に衝突し、被災者が両車両の間に挟まれた。	80109	1～9
2006	3	15 ～ 16	墓石の調整作業が終了し、使用していたクレーンをトラックの荷台に載せる準備のため、後ろ向きに移動させていたところ、斜面（5～12度）であったため、止まらず、道路沿いに停車させておいたトラックの「アオリ」部分	80209	1～9

			と操作ハンドルの間に挟まれる形となり、死亡した。		
2006	8	13 ～ 14	現場駐車場内において、作業者が車両積載型トラッククレーンをバックで方向転換した際、後ろにいた被災者に激突した。	30209	1～9
2006	8	16 ～ 17	鋼管杭3本を溶接して打設する作業中、上杭をクレーンで据え付けたところ、上杭が完全な鉛直とならないため、修正しようと傾いた側を溶接で仮止め（点付け溶接）し、玉掛者の合図により反対方向へクレーンを旋回させ調整しようとしたところ、上杭が外れ別の杭方向へ振れたため、溶接作業を行っていた被災者に当り、被災者が鋼管と鋼管に挟まれた。	30105	10～ 29
2006	9	14 ～ 15	コンクリート製品製造工場の製品置場で、車両積載形トラッククレーンにより、L字型コンクリート製品（高さ1.75m、底辺2m、重さ約1.7トン）を荷台に積み込み、荷外し後、クレーンのブームを上げたところ、荷台上でクレーンをリモコン操作していた被災者に当該製品が倒れ掛かり、積載済の製品との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2007	12	9 ～ 10	雨水幹線築造工事（開削）現場で長さ10m、重量1.5tの切梁を撤去する作業を行っていた。被災者は底にいて介錯ロープを持ち移動式クレーンでつられた切梁を誘導していたが、切梁が揺れて被災者に激突、鋼矢板との間にはさまれた。	30110	30～ 49
2007	10	8 ～ 9	つり上げ荷重2.93tの車両積載形トラッククレーンを用いて、大型乗用車を荷台から地上に降ろす作業中、被災者は荷台上で大型乗用車に玉掛けをした後、地上に降り、当該トラッククレーンの操作レバーを操作して、当該大型乗用車をつり上げた後、右旋回をしていたところ、当該トラッククレーンが転倒し、被災者がトラッククレーンの下敷きになった。	80202	1～9
2007	2	8 ～ 9	被災者は工場内にてフォークリフトのカウンターウエイト下にはさまっていたスクラップ材（スチール製ホイール）を、ハンマーで取り出そうとしていた。そこへ取引業者のトラックが後退してきたため、被災者にトラックの荷台後部が激突し、フォークリフトのカウンターウエイトとの間にはさまれた。	11209	10～ 29

2007	6	13 ～ 14	工場駐車場の敷き均し工事が終了し、工場で不要となった暖房用ヒーター（高さ約3 m、縦1. 16 m、横1. 66 m、重さ1. 15 t）を引き取る ことになり、2. 9 t 釣り車両積載形トラッククレーンでヒーター本体に玉 掛ワイヤロープを一重に巻き付けて釣り上げ、トラックの荷台に置こうとク レーンを横引きした時に、ヒーターのバランスが崩れ、近くにいた被災者に 激突した。	30209	1～9
2007	8	8 ～ 9	釣り上げ荷重4. 9 t の移動式クレーンを用いて材木23本（約800 k g）を移動中、過負荷警報ブザーが鳴ってブームが停止した。運転士はス イッチを切り替えて無効化し、ブームを下げたところ、クレーンが傾き、足 場等に当たって止まった。材木を降ろそうと巻き下げて土場に置いた数分後 に、無負荷状態となったクレーンが元に戻って材木が動き出し、被災者に激 突した。	30209	1～9
2007	9	11 ～ 12	小型船舶の補修・塗装作業用足場を設置するため、クローラクレーン（つり 上げ能力20 t）を用いて、約4 mの単管19本（約200 kg）をつり上 げて移動させたところ、同クレーンの起伏ワイヤーが破断してブームが落下 し、被災者に激突した。	11501	1～9
2008	11	10 ～ 11	被災者は、単独で積載形トラッククレーンを用い、コンクリート製電柱 （970kg）を建柱作業現場に運搬し、数10mおきに一本ずつ荷卸ししていた が、6本目の電柱を作業現場の道路の路肩に荷卸しし、玉掛していたワイヤ ロープの目止めを解き、ラジコン操作によってフックを巻き上げて、ワイヤ ロープを電柱の下から引き抜いた際に、電柱が道路脇の用水路に向かって転 がり出して、被災者に激突した。	40301	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	土木資材を建設現場で荷卸作業中、積載形トラッククレーンが左側に傾き、 オペレーターがガードレールと当該移動式クレーンとの間にはさまれた。	80209	1～9
2008	1	14 ～ 15	工場内で廃車（4tトラック）を移動式クレーンを用いて釣り上げたところ、 玉掛に使用していたワイヤロープが切断して廃車前方で揺れを押さえていた 被災者にバランスを崩した廃車が激突した。	40409	1～9

2008	11	17 ～ 18	つり上げ荷重2.9tの積載形トラッククレーンを使用して、その荷台にあった重量約2tのトラック（最大積載量2500kg）をつり上げて旋回しようとしたところ、トラッククレーンが被災者側に倒れてきて、隣にあった別の2tトラックとの間にはさまれた。	11209	10～ 29
2008	11	10 ～ 11	ホイールローダーを使用した販売用木材のはい積み作業において、被災者はローダーにより木材を荷台から降ろす作業の合間を利用して、はいの木回し作業を行っていた。その際、被災者が、自らが木回しした後のはいに再度立ち入ったため、ローダー運転者が慌てて旋回を止めたが、木材がグラップルから滑り落ちて被災者に激突した。	80209	1～9
2008	3	4 ～ 5	工事規制区域内にて警備業務をおこなっていたところ、後退してきた4t車車両積載形トラッククレーンにひかれて死亡した。	170201	10～ 29
2008	9	8 ～ 9	小型移動式クレーンを使用してボード板等の建築資材を搬出しようとしたところ、当該クレーンの第二ブームが突然折れ曲がって倒れ、ブーム先端に取り付けられている籠がブーム下方の地上で角材の切断作業を行っていた被災者に激突した。籠はブーム先端にボルトで固定しているが、作業時は籠は使用せずに通常のつり作業が行われていた。	30201	1～9
2009	8	7 ～ 8	被災者は、積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）により、ミニドラグ・ショベル（重量約1.2t）を河川に降ろすため、クレーンの横に立ち、操作レバーで作業していたところ、クレーンが横転した。被災者は横転したクレーンに激突され、河川の周囲に設置されていた柵との間に体をはさまれた。単独作業であり、アウトリガーの張り出しはしていなかった。	30199	10～ 29
2009	11	10 ～ 11	前日に伐採した木（根株：径1m、長さ3.0m、質量約1.3t）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93t）で荷台に積込作業を行っていたところ、同クレーンを運転操作していた被災者が、根株と荷台にはさまれた。	30301	10～ 29
		14	住宅新築工事現場において、積載形トラッククレーン（2.02tつり）で運んできた荷（木製コンパネ27枚他を束ねて一つにしたもの、重量計約600kg）		10～

2009	4	～	を玉掛けし、現場に降ろそうとした時、当該クレーンが横のブロック壁に寄りかかるように倒れ、運転していた被災者がその間にはさまれた。なお、倒れた側のアウトリガーは折れていた。	30202	29
2009	11	11 ～ 12	敷地内廃材等処分整地工事現場において、被災者が移動式クレーン（車両積載形トラッククレーン）を用いてコンクリートの塊（重量1.6t程度）を当該移動式クレーンでつり上げて荷台に積み込む作業中、移動式クレーンが転倒し、車外で操作していた被災者が、移動式クレーンの下敷きになった。	30199	10～ 29
2010	1	～	移動式クレーン（最大つり上げ荷重25t）にて、1階部分梁の型枠（全長960cm、幅80cm、高さ80cm、推定荷重440kg）を作業半径33mの据付位置へ移動させるため起伏操作を行ったところ、能力を超えて荷を吊るために過負荷防止装置を切って作業を行ったため、起伏操作によりブームを倒すことで過負荷状態となった。このため、移動式クレーンが転倒し、荷の据付場所付近にいた被災者の頭部にジブが激突し被災した。被災者は、病院で死亡が確認された。	30209	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	道路新設工事において、クレーン仕様のドラグ・ショベル（吊上荷重2.9t）を用いて、車道の脇にコンクリート2次製品（0.63t）を設置する作業中、同製品を吊り上げた時にドラグ・ショベルの上部旋回体が突然、右旋回して、同製品に玉掛けをした被災者に激突した。	30106	10～ 29
2010	2	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造の病院新築工事現場において、移動式クレーンを使用して型枠工事用の資材を1階のフロアーから中庭吹抜け部分に移動させる荷上げ作業中、資材を吊り上げたところ、後部アウトリガーが浮き上がり、そのまま移動式クレーンが転倒し、2階スラブ上で作業を行っていた被災者の頭部にジブが直撃し死亡した。	30309	30～ 49
2010	5	13 ～ 14	委託先から10tトラックで回収したケイ素鋼板スクラップを同僚がリフティングマグネットを装着した油圧ショベル（マグネット仕様機）を使い、鉄製の箱に移し替えていた際、被災者がトラックと鉄製の箱の間に何らかの理由で立ち入り、マグネット仕様機の旋回と共に動いたトラックと鉄製の箱の側面との間に頭部を挟まれた。	80209	10～ 29

2010	10	12 ～ 13	海水配管交換工事において、撤去する既設配管及び台座点付け箇所を切断後、当該配管を移動式クレーンでつり上げようとしたところ、つり上げた配管が振れて被災者の右側頭部に激突した。	30309	1～9
2010	10	16 ～ 17	積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台に積んであった荷（廃車するトラックの運転室等）を、被災者が当該クレーンを操作し降ろす作業をしていたところ、当該クレーンが転倒し、被災者がその下敷きとなった。アウトリガを張り出しておらず、定格荷重を超えていたとみられる。	11701	1～9
2011	6	8 ～ 9	原共同墓地にて、震災により倒れた墓石を建て起こす作業のため、小型移動式クレーンに積んだミニクローラクレーンを当該小型移動式クレーンを用いて地上に降ろそうと吊り上げたところ、アウトリガーが地中に埋まり、小型移動式クレーンが傾き、ミニクローラクレーンと側方に停車していた乗用車の間に挟まれ、胸部を圧迫されて死亡したものの。	10909	1～9
2011	10	13 ～ 14	足場材の資材置場にて、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を使用し、結束された足場材60枚（835kg）をトラックの荷台から降ろす際にトラックのタイヤが浮き、ゆっくりと転倒した。なお、転倒した際に5段ブームのうち、4段ブームが被災者の脊髄を押しように激突した。	30201	1～9
2011	3	18 ～ 19	120tクローラクレーン操作者が立坑内（深さ35m）に吹付用コンクリートホッパー（重量4.3t）を荷降ろししていたところ、被災者が坑内にて高さ1.5mの吹付機械の上へ、据付はしごを昇っているところで、荷と吹付機械に、激突されて被災した。被災者本人がクレーン操作者と無線機を使用して荷降ろし作業を行っていた。無線での通話状態は明瞭であった。	30101	50～ 99
2011	8	16 ～ 17	道路改良工事において、被災者が片付け作業を行っていたところ、移動式クレーン仕様（つり上げ荷重1.7t）に切替え、ランマーをつり上げてきたドラグ・ショベルのクローラに激突され死亡したものの。	30106	30～ 49
2012	3	14 ～ 15	道路工事現場において、請負業者が下り坂（勾配約10%）の途中に駐車した4t積み積載型トラッククレーンが、無人のまま下り坂を後退し、下方にいた被災者に激突した。	30199	50～ 99

2012	1	13 ～ 14	積載型トラッククレーンを使用し、荷台から小型ドラグ・ショベルを降ろすためにつり上げていたところ、積載型トラッククレーンが転倒して、運転を行っていた被災者は、後方の雪壁と積載型トラッククレーンとの間に挟まれた。なお、被災者は小型移動式クレーンの運転に係る資格を有していなかった。	30209	1～9
2012	11	16 ～ 17	街路灯の新設及び老朽化した街路灯の撤去を行う工事の資材置き場において、撤去された街路灯のコンクリート基礎部分を移動式クレーン（車両積載型トラッククレーン）を用いてつり上げて旋回した際、当該クレーンがバランスを崩して倒れ、当該クレーンを運転していた被災者が当該クレーンと資材置き場に置かれていたコンクリートブロックとの間に身体を挟まれて死亡した。	30309	10～ 29
2012	9	14 ～ 15	建設現場でドラグショベルのバケットを交換するため、被災者は単独で自社の移動式クレーンで搬送し下ろそうとしていたところ、移動式クレーンが転倒して地面との間に挟まれ死亡した。	80409	1～9
2012	5	8 ～ 9	住宅増改築工事において、移動式クレーンを用いて生コンを入れたコンクリートバケットを吊り上げ、基礎打設作業を行っていたところ、移動式クレーンを設置した地盤が崩壊し移動式クレーンが倒れ、移動式クレーンのジブが基礎作業を行っていた被災者の背面に激突した。	30202	1～9
2012	12	8 ～ 9	敷地内で、生ゴミ回収用の保冷車のフロント硝子を拭いていた被災者は、背後からバックしてきた同僚が運転する車両積載型トラッククレーンとの間に挟まれて死亡した。	150102	1～9
2012	2	10 ～ 11	自社所有の焼却炉の修理のため、焼却炉蓋を移動式クレーンで吊り上げて外し、被災者の合図で地面に下ろしていたところ、下半身が蓋にはさまれている被災者が発見された。	30199	10～ 29
2013	11	14 ～	被災者は、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.63トン）により、除染した土砂等を入れたフレキシブルコンテナバッグ（1.3トン）を山道脇の空き地に降ろすため、クレーン操作を行っていたところ、積載型トラッ	30309	1～9

		15	クレーンが横転した。これにより、操作をしていた被災者は積載型トラッククレーンのキャビンと、近くに敷き並べられていた単管パイプの間に挟まれ、圧死した。尚、目撃者はいない。		
2013	10	11 ～ 12	被災者は、事業所構内において運転してきたトラックから降り、一旦、構内入口の守衛所に向かおうとしたところ、停車させていたトラックが動き出した。被災者は、走ってトラック前方に回り人力で停車させようとしたが、トラックはそのまま前方に停車していた別のトラックの側面に衝突し、被災者もそのトラック間に頭部を挟まれ、頭蓋骨陥没により死亡した。	150103	10～ 29
2013	10	9 ～ 10	台風接近に伴い、準備していた構内冠水時の対応用の排水ポンプと排水ホースを片付ける作業中、元請労働者が運転するつり上げ荷重7 tのホイールクレーンを前進移動させたところ、その傍らで排水ホースの巻き取り作業をしていた被災者（下請労働者）が轢かれた。	170209	30～ 49
2013	6	11 ～ 12	クレーン機能付きドラグショベル（つり上げ荷重2.9 t）を用いて、L型擁壁（重量1.8 t）を3点つり（壁部2箇所・底盤部1箇所）にて仮置きを終了させ、被災者が壁部2箇所の玉外し作業を終えたところ、底盤部の玉外し作業が残っているにも関わらず、運転者は玉外し作業が完全に終了したものと思い込み、同ドラグショベルのブームを上昇させた際、L型擁壁が倒れ、L型擁壁と法面の間にいた被災者が挟まれ死亡した。	30201	10～ 29
2014	12	15 ～ 16	クレーン機能付ドラグショベルでコンクリートブロックを吊り、護岸堤防に設置する際、被災者が、一旦地上に下ろした荷の横に入り、ブロックの位置決め作業を行っていたところ、クレーン機能付ドラグショベルが不意に旋回し、被災者がつり荷のブロックと既に設置してあったブロックとの間に挟まれ、死亡した。	30107	30～ 49
2014	9	10 ～ 11	定置網の錨ロープ清掃作業中、定置網へ錨ロープを取り付けようと、巻きロープをキャプスタンを使い巻き上げた際、ロープをクレーンで海面まで巻き上げたところ、巻きロープが切れ、クレーンのフックが被災者にあたった。	70201	50～ 99
			被災者らは、造園工事において、土地造成に伴う石積み作業を行っていた。		

2015	5	10 ～ 11	被災者は、積載型トラッククレーンを用いて、鉄板（重さ約120kg）2枚を当該トラッククレーンの荷台に積み、アウトリガーを格納していたところ、当該トラッククレーンが後退し、隣接して駐車していたブル・ドーザーの排土板と当該トラッククレーンの間にはさまれた。	30109	1～9
2015	7	9 ～ 10	寺の敷地内において、庭に設置した庭石（寸法：90×70、厚さ17cm、重量：約130kg）の位置を変更するため、つり上げ荷重0.995tの小型移動式クレーン（通称：カニクレーン）を使用して、庭石を吊り上げたところ横転し、ジブの先端が作業の様子を見ていた被災者の頭・背部に激突した。小型移動式クレーンはアウトリガーを張り出しておらず、設置した場所も平坦な場所ではなかった。	30199	1～9
2015	4	13 ～ 14	資材置場に炉（約800kg）を降ろそうと、つり上げて旋回したところ、車両積載型トラッククレーンが傾き、横転した。当該クレーンを操作していた被災者は倒れてきたクレーンの下敷きとなり、病院に搬送されたが死亡した。なお、アウトリガーは張り出されていなかった。	150102	1～9
2015	1	10 ～ 11	高速道路の路肩に照明灯を設置する工事。照明灯のコンクリ基礎部分を移動式クレーンの荷台から吊って路肩の穴に入れるべく旋回させていたところ、路肩側に当該クレーンが横転し、誘導者（一次下請の労働者）が移動式クレーンとガードレールとの間に挟まれた。荷の重量は1.84t、吊上荷重は2.93t、アウトリガーは道路側は出さず、路肩側は中間張出であった。被災労働者は8日後、搬送先の病院にて死亡した。	30301	10～ 29
2015	9	14 ～ 15	ドラグショベルを移動式クレーンモード（つり上げ荷重2.9トン）で使用し、排水路上から排水路内へ鉄板（6m×1.5m、厚み2.2cm、1.6トン）を下ろす作業において、排水路の法肩（法面の角度約20度）上に設置した移動式クレーンで鉄板をつり上げて左に旋回した際に、地盤が緩んで移動式クレーンが左に傾き、排水路内にいた被災者の方向に荷が振れ、被災者が鉄板と砂防ダムの間で挟まれて死亡した。	30107	30～ 49
			金属リサイクル業者の敷地内において、金属買取り業者の被災労働者がトラック納品のため入場、Y社の労働者2名が2機の重機を使用し荷降ろしを		

2015	6	11 ～ 12	開始、作業を終了しようとしたところ、トラックの荷台の上に被災労働者が倒れているのが発見されたもの。当該作業の際、被災労働者が荷台に立ち入るのを現認したものはいない。なお被災労働者の労働者性については現在調査中である。	80109	10～ 29
2015	8	10 ～ 11	バイパス上において、道路照明ポール（長さ9.5m、重さ170kg）を撤去するため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）で吊り、端部（アンカー部）を地上に着地させた後、先端部を下ろそうとした際に、ポール向きを調整しようとしたところ、当該ポールが被災者側に動き、ポールとトラッククレーン荷台のあおりの間に胸部を挟まれたもの。心肺停止状態で病院に搬送されたが病院で死亡（12：26）が確認された。	30301	1～9
2016	11	8 ～ 9	車両積載型トラッククレーン（ジブが伸縮する型式）の荷台から、建設機械を当該クレーンを用いて荷台の側方に降ろしている際に転倒し、クレーンの運転者が下敷きになった。	30199	1～9
2016	9	13 ～ 14	被災者は、浮きクレーンのブームを定位置に置くため、同僚と船上でフックを横置きする作業を行っていた。当日使用していない補巻ワイヤー（補巻フック用ワイヤー）は、ブームに沿ってクレーン上部旋回体下部の取付金具に掛けて格納していたが、浮きクレーンのブームを下げた際、補巻ワイヤーが緊張し、取付金具が破断。外れた補巻ワイヤーが約30メートル先のフック付近にいた被災者に激突した。	30111	10～ 29
2016	9	15 ～ 16	港内にて、長さ8.5メートル幅43センチメートルの鋼製矢板を18枚束ねた荷（約9トン）をクローラクレーンで吊り上げ、クレーンの前方左方向に約45度回転させて防波堤脇の荷置場へ仮置きしていたところ、荷の受け取りを行っていた労働者のうち1名の胸部が吊り荷とコンクリート防波堤との間に挟まれ、心破裂し、死亡した。	30111	30～ 49
2016	9	16 ～ 17	災害復旧工事の現場において敷鉄板の搬出作業中、ドラグショベルで吊り上げた敷鉄板をダンプ荷台上で荷受けしていた被災者が、敷鉄板とダンプのあおりに挟まれ被災した。災害発生後手術を行い、一命を取り留め容体は安定	30107	30～ 49

			していたが、発生から41日後に死亡した。		
2016	4	8 ～ 9	傾斜している工事用道路（上り坂）において、クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊っていたセメント袋を、目的地に下ろすため右旋回したところ、後方に転倒し、吊り荷が被災者に激突した。	30108	30～ 49
2017	9	14 ～ 15	長さ17メートル、奥行き1.4メートル、高さ1メートル程度の鉄製配管（重量6.7トン）を、クレーンによる移動作業中、当該配管を高さ80センチメートルにある木製の台座に下ろすために台座の上方20センチメートルまで下ろしたところ、クレーンにより吊っていた場所を中心として配管が垂直方向に回転したため、回転する配管の突出部分に労働者1名が巻き込まれ、配管と地面に当該労働者がはさまり、死亡した。	30309	1～9
2017	7	8 ～ 9	出張先の霊園において、車載型トラッククレーンで小型クローラクレーンをつり上げてトラックの荷台へ積み込んでいた際に、トラックの車体とクレーンとの接合部分が損傷し、ブームが倒れ、監視業務を行っていた被災者の頭部にブームが激突した。	10909	10～ 29
2017	5	10 ～ 11	下水道新設工事において、クレーン機能を備えたドラグショベルを用いてクレーン作業で下水管（HPφ800 重さ約1.2t）をつり上げて、事前に掘削した底面（深さ約1.9m）に設置する作業中、つり上げた下水管の一端が掘削側面に接触し動かなくなったため、被災者が掘削底面に下り、下水管に近づき素手で接触部分を外したところ、つり上げられていた下水管が振れ被災者の胸部に激突した。	30110	10～ 29
2017	5	8 ～ 9	鉄骨造建物の新築工事現場で行っていた鉄骨建方作業において、高さ9.4メートルの鉄骨上で、相番者1名と鉄骨梁の取付作業をしていた被災者に、移動式クレーンで吊られた状態の鉄骨梁（重量4.2トン）が激突し、被災者が頸髄損傷で死亡した。	30209	1～9
2017	2	14 ～	被災者と事業主の2名が私有地の山林でつり上げ荷重2.93トンの移動式クレーンを用いて、丸太をかにはさみ状の玉掛け用具を用いて一点吊りにし仮置き場に移動させる際、荷が片側に傾いていたため、仮置きしていた丸太に荷の先端があたり、反動で吊り具のはさみの一方がはずれ、荷が先端を軸	10401	1～9

		15	として回転し、荷の近くにいた被災者の背中に激突したあと、頭部にも当たり翌日脳挫傷により死亡した。		
2017	2	6 ~ 7	被災者は鉄屑をトラックで工場内の鉄屑下ろし場に搬入した。作業員が、ドラグショベルにリフティングマグネットを装着した移動式クレーンを使用してトラックの荷台から鉄屑を下ろす作業を行っていたが、近くで見えていたはずの被災者の姿が見えなくなったため、荷台の中を確認したところ、荷台の後方で倒れている被災者を発見した。なお荷台の中には竹ぼうきが落ちていた。	150102	10~ 29
2017	1	8 ~ 9	クローラクレーン（吊り上げ荷重200t）の起伏ドラム（ダブル）に巻かれているワイヤーロープ（φ22mm）が乱巻きとなり、一方のワイヤーロープは巻き取られずにカウンターウエイトまではみ出していたことから、被災者と同僚作業員が乱巻き等を直していたところ、突然ジブが降下し、撓んでいたワイヤーロープが瞬時に張ったため、起伏ドラム方向にワイヤーロープが弾け、同僚作業員の顔面をかすめ、被災者の頭部を直撃した。	30111	30~ 49
2018	10	18 ~ 19	鉄・非鉄スクラップ加工処理場において、トラックの荷台上のスクラップを重機に取り付けたリフティングマグネットを使ってつり上げ作業をしていたところ、荷台内にいた合図者兼トラック運転者である被災者に、リフティングマグネットが激突したものの。	11709	1~9
2018	8	10 ~ 11	被災者は、配送作業員として所属事業場所有のリース機械である高所作業車をつり上げ荷重2.6tの小型移動式クレーンの荷台に載せて、災害発生場所の建設現場に運搬した後、当該現場横の駐車場において、小型移動式クレーンを用いて荷台に載せた高所作業車をつり上げ地上に下ろそうとしたところ、当該小型移動式クレーンが横転し、つり上げていた高所作業車の下敷きとなったものである。	80409	1~9
2018	6	10 ~	クレーン機能付ドラグ・ショベル（定格荷重2.9t、クレーンモードで使用）で、ロードマット（格子状の金属製敷板：重量約600kg）を吊った状態で車両通行路（上り勾配：約20度）を走行していたところ、履帯（ク	30199	10~

		11	ローラ)が滑ったため、運転手は吊荷を下し、バケットを地面に着いて滑りを止めようとしたが止められず、法面にいた被災者を巻き込み、路肩から約17m下に転落した。		29
2018	5	10 ~ 11	ユニック(移動式クレーン)で現場に資材を搬入してきた被災者が資材(約1.4トン)をユニックのクレーンで吊っていたところ、ユニックが傾き、その車体と現場の仮囲いのポールとの間にはさまれたもの。	40301	50~ 99
2018	3	14 ~ 15	トラックの荷の積み込み作業を終えて運転席に戻ろうとしたときに、別会社の労働者が運転するトラッククレーンにはねられて死亡したものである。	40301	10~ 29
2018	2	8 ~ 9	休耕している水田内に工事中仮設作業道として設置していた敷鉄板の搬出作業中、クレーン機能付きドラグショベルで吊った敷鉄板がダンプの荷台上で引っかかり動かない状態となった。クレーン機能付きドラグショベルを運転していた被災者が運転席から降り、自らダンプの後アオリを下したところ、敷鉄板が振り子状に動き被災者の胸に激突し、続けて被災者後方の重機に背中から激突したものである。	30199	1~9
2019	12	18 ~ 20	二本のH鋼(3.6mと5.4m)をクレーンで連結させる作業を行っていた。H鋼は並列に二本置かれている状態で、その並列で置かれているH鋼の間で連結させた部分のボルトを締める作業を被災者と同作業者の二名で行っていた。連結作業終了後、チェーンブロックを巻き上げた際にフックがH鋼に当たり、H鋼が被災者側に倒れ、下敷きになり、死亡した。	30209	1~9
2019	12	10 ~ 12	会社の資材置場の敷地において、作業員(移動式クレーン運転士)がホイールクレーン(つり上げ荷重25t)を使用し、クレーン前方向右側にあった鉄製バケット(約100kg)をトラックに積み込むため当該バケットの位置までブームを伸ばした際、クレーン前方向右側に転倒し、ブーム先が当該バケット付近にいた被災者(玉掛者)に激突した。転倒時のブーム長さ約16.5m、傾斜角約27度、作業半径約13mであった。	30199	10~ 29
			工場において、トラック荷台上に積まれた鉄材のスクラップをマグネットのアクセサリーを取り付けたドラグ・ショベルで荷降ろしする作業を行ってい		

2019	7	10 ～ 12	た。トラック荷台の床面付近をドラグ・ショベル先端のマグネットで複数回往復させたところで同僚がトラック内に被災者が倒れていることを発見したもの。マグネットがトラック荷台にいた被災者の頭部に激突したものと推定される。	40301	1～9
2019	7	10 ～ 12	工場内において、オペレーターが、移動式クレーン（リフティングマグネット装着）を運転して、被災者の乗っていたトレーラーの荷台のスクラップを持ち上げた。被災者が持っていた竹ぼうきも吸い付いてきたため、ドラグショベルを降り、トレーラー荷台を見に行ったところ、被災者が倒れていた。	40301	10～ 29
2019	2	10 ～ 12	被災者は砂防工事現場において車両積載型クレーンを使用し、工所用道路で使用した敷鉄板の搬出作業に従事。トラック荷台上約40cmの位置から鉄板を荷台へ降ろそうとしたところ、ジブ根本部分にある巻上用ドラムの位置がずれ、ドラムの歯車がピニオンから外れたためドラムが回転し、巻上用ワイヤーロープが滑り出て荷が落下。落下した鉄板が荷台上にいた被災者に接触し、その反動で1.15m下の地面に墜落した。	30108	10～ 29
2019	2	8 ～ 10	被災者は朝から一人で被災現場で産業廃棄物を入れたコンテナ（総重量2.3t）を回収するため、車両積載型トラッククレーンで積み込み作業を行っていた。荷を吊り上げ、ジブを旋回させた際、機体がバランスを崩し、操作していた被災者の方へ横転し下敷きになったもの。	150102	50～ 99
2020	9	10 ～ 12	つり上げ荷重2.33tの積載型トラッククレーンを操作し、荷台に積んだヒューム管（約600kg、60cm（外径）、長さ2.5m）の積み下ろしをしていたところ、移動式クレーンが倒れ、運転席ドア部と地面に挟まれた。	30209	1～9
2020	2	10 ～ 12	掘削用の防護壁の支柱として使用していたH型鋼（長さ：766cm、幅：30cm、重さ：約660kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊り上げ、旋回していたところ、玉掛け用の吊りクランプから当該H型鋼が脱落し、付近で交通誘導をしていた被災者の背後に向かって倒れ、そのま	170201	1～9

ま同者に激突したもの。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html